

## 編 集 後 記

私は2017年6月1日より、前任の鈴木則宏先生から業務を引き継ぎ、日本神経学会編集委員会第11期委員長を4年間勤めさせていただきました。最後の1年余りはコロナ禍という日本・世界の未曾有の危機に直面しました。緊急事態宣言も発令され、読者の皆様には日々奮闘していらっしゃるであろうことに心から敬意を表します。そのような中ではありましたが、幸い大過なく任期を全うできそうで、ほっとしております。

鈴木前委員長の時代に、電子ジャーナル化という本誌始まって以来の最大の変革を成し遂げていただきましたので、私はそれを引き継いで行けばよいだけの比較的問題の少ない4年間だったかと思えます。電子化関係では、臨床神経学の第1巻からすべてのアーカイブ化完了、全文HTML化の開始などを行いました。電子ジャーナルへのアクセス数は、2016年度の約254万件から2019年度に約613万件とピークに達しました。2020年は約512万件となぜか若干の減少を示しておりその原因は不明ですが、むしろ電子ジャーナルとして十分定着したと評価すべきでしょう。新規投稿論文数の減少傾向が課題でしたが、2017年度の125編をボトムとして以後2018年度132件、2019年度150件、2020年度164件とV字回復を示しており、2020年度はここ10年での最高記録となっています（次いで2013年度163件）。コロナ禍になってむしろ投稿数が増えた印象があり、「巣籠もり執筆」と編集委員のお一方が命名しましたが、投稿数回復傾向はその前年の2019年度から明確です。症例報告の医学的・教育的価値が再認識さ

れていること、PubMed収載の全文閲覧可能な電子ジャーナルという臨床神経学の利点が、翻訳ソフトの発達も相俟って高まっていることなどが原因として推測され、嬉しい限りです。投稿数減少傾向の中委員長を引き継いだ時には、英文誌NCNの存在もありますし、本誌はむしろ総説掲載誌にシフトすべきではとあって、総会の企画から各編集委員に依頼総説候補を挙げてもらうという新しい試みを始めましたが、通常の投稿も増加するという嬉しい悲鳴状態です。ただ、診療の指針となる優れた総説を会員に提供することは本誌の大事な役割と考えており、皆様からも是非積極的な総説投稿をお待ちしております。

この4年間に他にやったこととして、委員会等報告の掲載を推進しました。学会が何をやっているのかを会員に伝えることは学会誌の大事な役割と考えたものです。その他適応外薬使用についての倫理面の整備、論文超過料金の適正化、引用文献コピーの廃止など、時代に即した投稿規定の見直しも心掛けました。委員会内部的には3人の幹事の方に掲載前原稿の最終チェックというたいへんなお役目を分担いただくとともに、細かな問題の迅速な審議を幹事・副委員長団にお願いするというシステムも活用しました。また投稿数の多い分野での編集委員を2名補充しました。

以上走り続けた4年間でしたが、編集委員の皆様、査読をお願いした皆様、そして会員の皆様のご支援のお陰で役目を終えることができたことを深く感謝しつつ、筆をおかせていただきます。

(園生雅弘)

### 〈 編 集 委 員 〉

編集委員長 園生 雅弘 編集副委員長 高尾 昌樹  
 編集幹事 小野寺 理 新野 正明 三澤 園子  
 編集委員 荒木 信夫 飯塚 高浩 池田 昭夫 今井 富裕 亀井 聡  
 古賀 政利 鈴木 匡子 坪井 義夫 西野 一三 星野 晴彦

〔臨床神経学〕 第61巻 第5号 2021年5月1日発行  
 編 集 者 東京都文京区湯島二丁目31番21号 一丸ビル 一般社団法人日本神経学会  
 発 行 者 東京都文京区湯島二丁目31番21号 一丸ビル 戸 田 達 史  
 印 刷 所 〔郵便番号 602-8048〕京都市上京区下立売通小川東入 中西印刷株式会社

発 行 所 〔郵便番号 113-0034〕東京都文京区湯島二丁目 31 番 21 号 一丸ビル  
 日 本 神 經 学 会

郵便振替口座 東京 00120-0-12550

TEL. 03-3815-1080 FAX. 03-3815-1931

ホームページアドレス：<http://www.neurology-jp.org/>